

みんなでふくし大作戦！

大作戦では次の3つのテーマで事業を展開します！

- 1 「ふくしの心」を高めましょう！**
Action あいさつや声かけをきっかけに、人と人とのつながりを強めるため、あいさつ・声かけ運動を実施します！
- 2 「ふくしの絆」を広めましょう！**
Action ボランティアの活動事例の紹介、福祉体験教室の実施、認知症サポーターの養成を通じ、福祉に対する理解や参加する人の輪の拡大を目指します！
- 3 「ふくしのまち」をつくりましょう！**
Action 地域福祉一覧表の作成、高齢者の孤立化を防止するサロンの設置、障がい者の就労支援、みんなにやさしい公園づくりなどふくしのまちを目指します！



平成22年11月18日に市長室で行われたふれあいミーティングの様子

地域の連帯は近所に住む人が出会った時に、あいさつをすることから始まると思います。自分の近いところから、もう少し笑顔であいさつを交わすことがあればと思います。まずはあいさつがないと、その先の連帯感に結びつかないので、地域で声をかけやすいという意識改革が必要ではないでしょうか。

また、施設の利用者が保育所や身体障害者施設に訪問する機会を作るなど、施設から社会に出て、いろいろな人とのつながりを持つというのが私の希望です。



遊佐さん

誰かが何かのきっかけであいさつしてくれたら自分も返すのにも思いますが、自分ではなかなかできないというのがあります。今回の大作戦の「あいさつ・声かけ運動」できっかけを作ることは非常に大切です。いろいろな方を巻き込んで、当り前の生活や安心を求める活動に参加してもらい、その輪を広めることを大作戦で行うと非常に良いと思

藤田さん

います。市民一丸となって、世代の垣根を越えて手を携えられるもの、何かしてもらいたいという心より、何かをしてあげるといふ心を育むようなことをする必要を感じています。



秋山さん

私の学校では毎朝先生方が玄関に立ってあいさつをしています。学校外でもコミュニケーションによって人間関係や信頼関係をちよつとずつでいいので積み重ねると、皆が繋がって、あいさつから地域の連帯感が生まれると思います。

市長

福祉を支える土台は、「ふくしの心」というものを地域全体で理解し、認識していく必要があると思います。その重要なひとつが声かけやあいさつだと思っています。皆さん福祉の仕事などを実践していく中で、そのことを表現している意見もありました。福祉に取り組むには、「あいさつ・声かけ」から始めなければ福祉は始まらないと思います。いかに子供から大人まで呼びかけ、問いかけることができるのかというのが、今回の大作戦の大きなテーマということ、皆さんの話を聞いて感じました。

誰も一人にさせないようなまことにすることだと思えます。児童虐待や独居老人の問題は、結局「助けて」と言うことができない。その機会を自分でつかめないとそこから起きています。

例えば、「あいさつ声かけ」運動も個人宅を訪問する業種などが連合して行えば、すごく良いと思います。普段の仕事でできる環境を持つている方が心がけて行う運動を、具体的に作れないかと考えています。助けが必要な時に助けてといえる人間関係を意識的に作る必要があります。



藤田さん

生がいろいろな場面で教えていく機会を増やして欲しいと思います。また、施設から社会に向かう機会を増やしたいとも思っています。そのためには職員だけでは無理なのでボランティアやNPO団体などが手を貸してくれば、施設生活者ももっと社会に出られると思います。

一般家庭でも「家族が何かしてあげたい、でも時間がない」という場合は社会福祉協議会で、この場合はこういうグループやNPOがあります。この紹介をしていきます。この仕組みが拡大して、社協・市・町内会・民協が結合することでアクセスしやすく、ワンストップで可能になる仕組みになればと感じています。

市長

遊佐さん

Thema ③ これからの苦小牧の福祉について

これからの社会の中で苦小牧地域がどういふ福祉のまちであって欲しいか、あるいはそれぞれの立場で、どのようなイメージでこれからの苦小牧の福祉というものをとらえているかを聴かせてください。



渡邊さん

障がいを持つている人でも得意なことがあるので、それをお互いに認めて支えあい、同じ労働者として当たり前に働いて生活を送れる、そんなまちになって欲しいという願いを持っています。

私は施設職員の立場で「障がい者を雇ってほしい」という仕事をしていきますが、受け入れ企業へのお手伝にも取り組み、障がい者と企業の橋渡し役になればと思います。さまざまな分野と協力しながら取り組み、市は何か少しの手助けやきっかけづくりをしてもらえればと思います。できることを各分野が連携して一緒に考えられればと思っています。

松下さん

あいさつによる地域の連帯が進み、みんなが繋がって行くことがこれからは必要です。つながって生まれたものを大事にして、さらに発展させて行く、そして、いかに福祉の現場を知って、新しい考えをどう生んで行くかが重要です。この大作戦をきっかけに一人でも多くの人が隣近所

認知症や障がいがあっても、安心して買い物に行けるとか、近所の人を見てあげられる環境など、安心して生活できる地域づくりが必要かと思います。そのためには地域住民の認知症



谷川さん

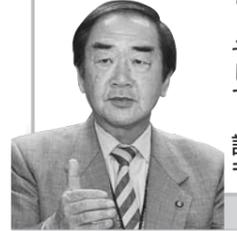
秋山さん

市長

現在の市では「ふれあい収集」を始め、申込者のお宅に個別に訪問してごみを収集する活動をしています。特に一人暮らしのお年寄りには安否確認なども含めて、コミュニケーションをするように、一人にさせないという役割があります。

また、今は電話注文でお宅に品物を届ける仕組みがありますが、これも物を運ぶだけでなく、何らかのコミュニケーションが生まれるというのが当たり前になると思っています。そういう業種はたくさんあるので、今後考える必要があります。

「福祉のまち苦小牧」の実現にむけて共に頑張ります。



「いろいろな人がいて、福祉っていろんな形がある」という福祉の意識は、ある程度の年齢からではなく、小さいころから大人がつけていかなければならないと思います。親や先

遊佐さん

今、それぞれの学校では、福祉の取り組みを発想して、皆で進めようとしています。子どものころから福祉体験をさせ、福祉の心を植え付けられたらと思っています。そういう積み重ねが、障がい者の就労支援の問題にもつながる感じがします。



市長

松下さん



小学生向け「ボランティア・アスクール」の様子